

プログラム番号	06042
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	神戸大学 海事科学研究科		
②学長名	野上 智行		
③所在地	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	海事科学部 学務課 学務第二係・係長	
	担当者氏名	岡部 均	e-mailアドレス okabeh@people.kobe-u.ac.jp
	電話・FAX番号	TEL:078-431-6225 FAX:078-431-6358	
⑤ホームページURL	<a href="http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/">http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/</a>		
⑥大学院在学留学生数	796人(うち、国費留学生 213人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	アジアにおける海事科学のリーダー養成プログラム
②プログラムの形態	博士課程(一貫制)(5年間)
③実施研究科・専攻	海事科学研究科 海事科学専攻(自然科学研究科の改組により、平成19年4月設置予定)
	(所在地) 神戸市東灘区深江南町5-1-1
④連携大学・研究科・専攻名	
⑤受入れ学生数	4人(うち研究留学生優先配置人数: 2人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 74人(うち専任: 69人、兼任: 5人、非常勤: 人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 自然科学研究科・教授
	研究科長名 福田 秀樹

### 【3. プログラムの内容】

#### 1. 海事科学研究科の創設 (～従来プログラムとの違い～)

神戸大学における海事科学関連の教育研究は、現在、「海事科学部」と「大学院自然科学研究科」において行われています。後者は、博士課程前期課程（修士課程）と博士課程後期課程（博士課程）に分かれますが、学部（B）と修士課程（M）の継続性が強く、その上に博士課程（D）が置かれているという体制です。大学院自然科学研究科では、理学、工学、農学及び海事科学を含めた学際的な学問領域を拡大してきましたが、さらなる発展を目指して、**2007年4月、「海事科学研究科」を含む4研究科と自然科学系先端融合研究環を設置する予定です。**この改組により、大学院に重点をおいたMD一貫の教育研究体制に移行します。

このため、従来、自然科学研究科博士課程後期課程（D）のみに設置されていた「国際コース」（英語での講義を行う特別コース）は、新しい海事科学研究科では、**博士課程前期課程（M）に入学して5年以内での博士課程後期課程（D）修了を目指すMD一貫制に変わります。**

#### 2. 海事科学研究科の概要 (～海事科学とは？～)

「海事科学」とは、海・船を舞台にした地球規模の人間活動に関わる輸送・情報・エネルギー・環境保全などの問題を、自然科学と社会科学を高度に連携させた科学的なアプローチによって解決することを目指す学際的な学問です。海事科学研究科では、学部教育において培われた基礎知識の上において、高度な専門教育及び研究活動に対する指導を進めることによって、国際的で多様な視点と問題解決能力を持つ創造性豊かな研究者・教育者・高度専門職業人を養成することを目的としています。

このために「海事科学専攻」を置き、

- (1) 海事に関するあらゆる安全管理と船舶運航システム、国際的な海事産業、多国間の連携を含む諸行政、海事関連法規などを教育研究する「**海事マネジメント科学講座**」
- (2) 効率的で安全かつ環境負荷の小さな輸送システム、物流情報、海洋環境情報をシステム・情報工学的視点から捉え、管理輸送・物流システムを総合的に教育研究する「**海洋ロジスティクス科学講座**」
- (3) 新機能物質や次世代の動力システムにおける多様なエネルギー技術、船舶をはじめとする海洋関連機械・構造物に関するエネルギー利用、環境保全、メカトロニクス技術を教育研究する「**マリンエンジニアリング講座**」

の3つの講座を配置しています。

#### 3. 本プログラムの目的 (～何をめざすか～)

神戸大学大学院海事科学研究科は、大学院に重点をおいた世界で唯一の海事系大学院となります。海事・海洋系研究の世界拠点となることだけでなく、海外からの留学生の教育・研究指導、それによる世界に通じるリーダー養成を積極的に展開することは、海事科学研究科としての重要な使命のひとつであると考えています。

こうした背景から、本プログラムにおいては、**アジア諸国からの留学生を主な対象とし、優秀な人材を育成し、修了後は母国における海事科学関連分野のリーダーとして送り出すこと**を目的としています。このことにより、世界各国の海事系・商船系大学及び関連教育研究機関に所属する研究者の育成、及び当該機関の研究レベル向上に貢献できると考えています。

## 4. 本プログラムの特徴 (～入学から修了まで～)

### 1) 入学者選抜方法

このプログラムの遂行には、優秀な成績だけではなく高い意欲と潜在能力を持った学生の入学が前提条件となります。そのために資質を十分に判断する必要があることから、主に次のような項目について選考を行います。

#### (1)大学・機関等からの推薦（第一次選考）

応募は原則として、アジア諸国の協定校又は政府機関等からの推薦とします。それ以外の場合は大学・機関等の長からの推薦とします。また、現在指導を受けている教員・所属長の所見も対象にします。

#### (2)指導予定教員の所見（第二次選考）

希望者は、応募の段階で、最も適切な教育研究分野の本研究科教員と事前にコンタクトをとり研究内容の打合せを行って下さい。希望の専門分野が広い場合や専門分野が複数ある場合には、担当委員がコーディネートし、相応しい分野の教員を紹介します。

#### (3)選考委員会による選抜（最終選考）

最終的には、選考委員会が提出された書類（推薦書、指導予定教員所見含む）、Eメールインタビュー等により選考します。



### 2) 入学後の教育研究体制

#### (1)生活面でのケア

事務部における英語による対応の他、保健管理センター、留学生センターにおいて日本での生活のケアを行います。

#### (2)英語による授業

前期課程の段階では、国際交流経験の豊富な教員が担当するコア科目（専門分野中心）と、広範囲にわたる海事科学分野の特徴に触れるための選択科目を受講します。

#### (3)複数の指導教員による指導とサポート

主指導教員に加えて複数の副指導教員が教育と研究を指導します。また、チューター学生が生活をサポートします。

#### (4)国際会議での論文発表

海事科学で扱う研究分野はもともと地球規模なので、研究成果はできるだけ国際会議で発表するよう奨励しています。そのための援助体制も整備しています。

#### (5) 研究経過報告会

研究が中心となる後期課程においては、着実な進展を確認するため、研究経過報告会を年2回開催します。これにより高品質の学位論文の完成を目指します。



### 3) 修了後の連携継続

本プログラム修了者の大半は、協定校の教員あるいは母国の海事関連高等機関の職員になるものと期待されます。また、日本での実務を希望する者に対しては、可能な限り希望に添うよう、関連機関や関連企業に働きかけるなどケアに努めます。

母国において海事科学関連分野のリーダーとなるであろう本プログラム修了者とは、アジアや世界全体の海事社会での国際交流を通して、また、母国研究機関のカウンターパートとして、修了後も本研究科と連携を継続していきます。